

4. 2. 2 生物生息環境改善施策の評価

(1) 湖岸勾配を変化させた場合

湖岸植生の生育環境改善策の一つとして、湖岸の緩傾斜化が挙げられる。ここでは、現況の湖岸勾配を-50%まで緩傾斜化したと仮定した場合について検討を行った。

緩傾斜化を進めることにより、全体的に HSI が高くなる傾向を示すが、その効果は湖西側で特に顕著であることが分かる。

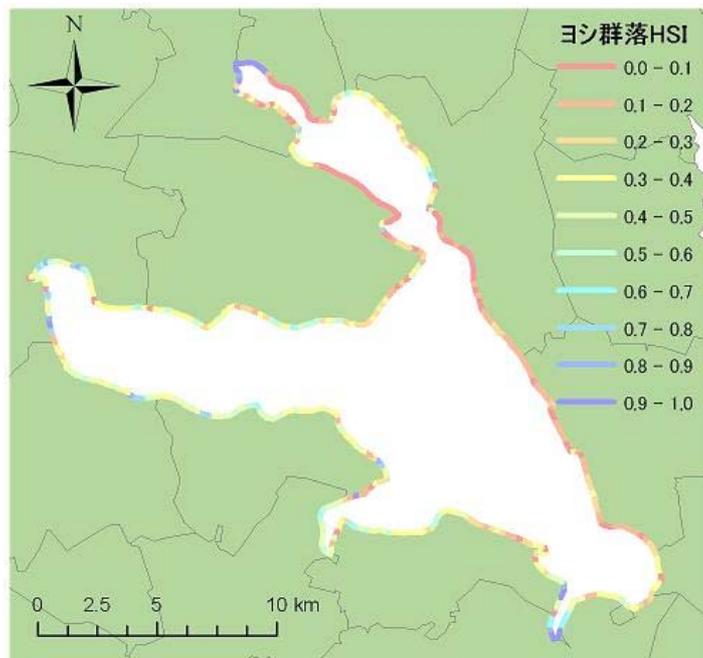


図-4.2.2.1 ヨシ群落の HSI(現況)

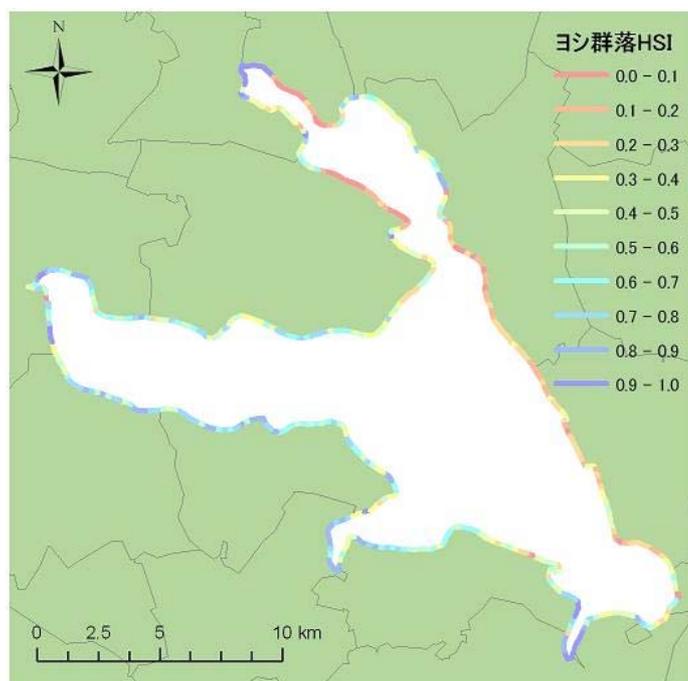


図-4.2.2.2 ヨシ群落の HSI(湖岸勾配を変化させた場合)

(2) 波高を小さくする施策を実施した場合

湖岸植生の生育環境改善策の一つとして、離岸堤などによる波高の減少策が挙げられる。ここでは、離岸堤の効果を考慮していない現況と、現在までに設置されている離岸堤データを取り込み、離岸堤既設箇所の波高が 0m に減少すると仮定したケースについて、図-4.2.3.3 および図-4.2.3.4 に示した(下図黒線が離岸堤設置箇所)。離岸堤設置箇所の HSI がやや高くなる傾向を示すことが分かる。

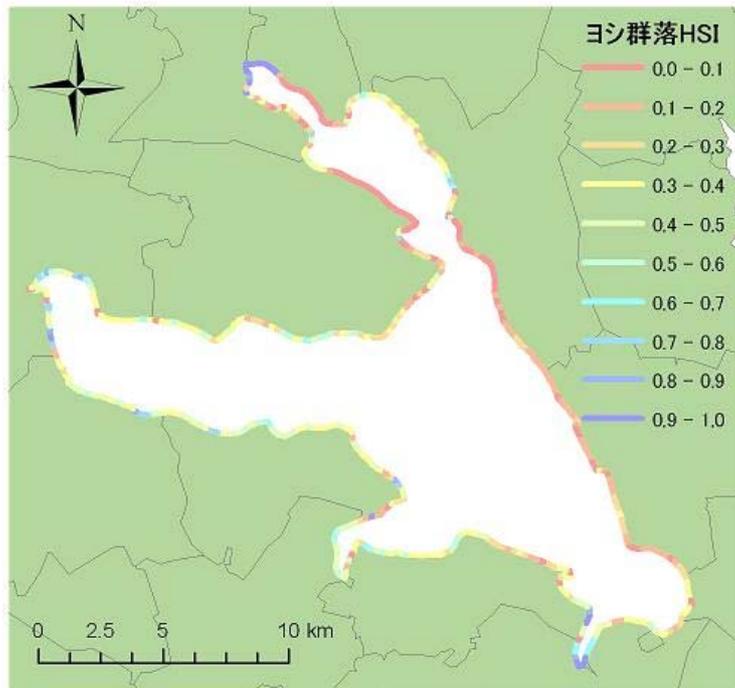


図-4.2.2.3 ヨシ群落の HSI(現況)

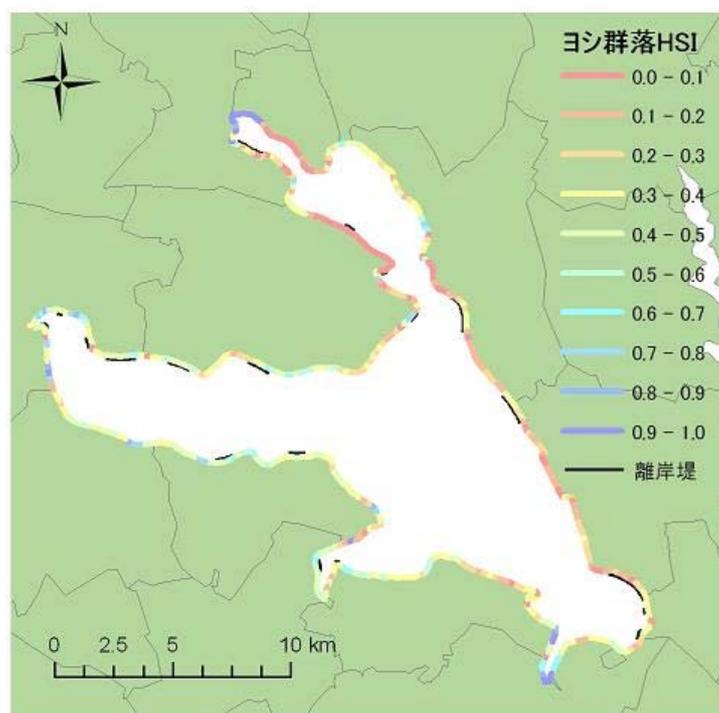


図-4.2.2.4 ヨシ群落の HSI(波高を小さくする施策を実施した場合)

更に、離岸堤の設置を進め、湖岸全域で波高を 0(波高 SI=1.0)とした場合を想定した検討を行った。

現在では波高が高く生育環境として適さない東岸においても、ある程度生育環境の改善がみられることがわかる。

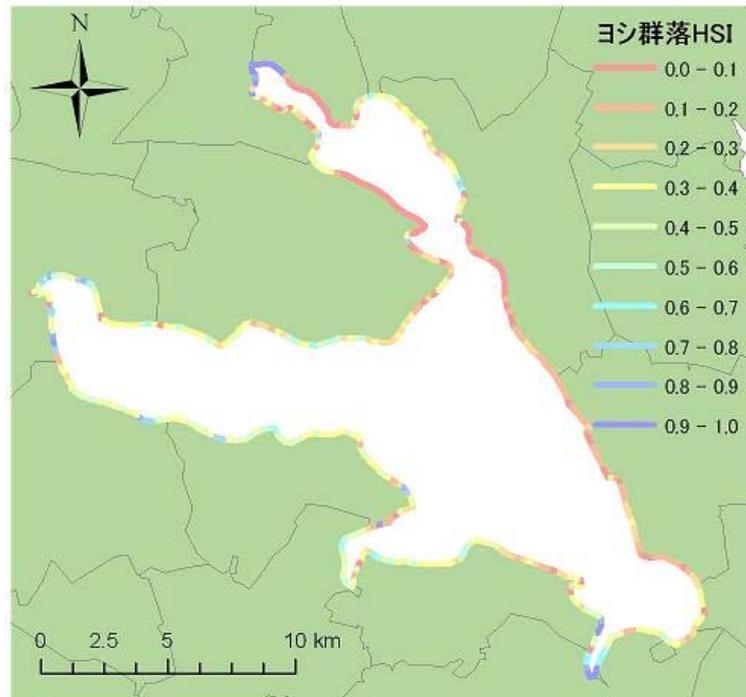


図-4.2.2.5 ヨシ群落の HSI(現況)

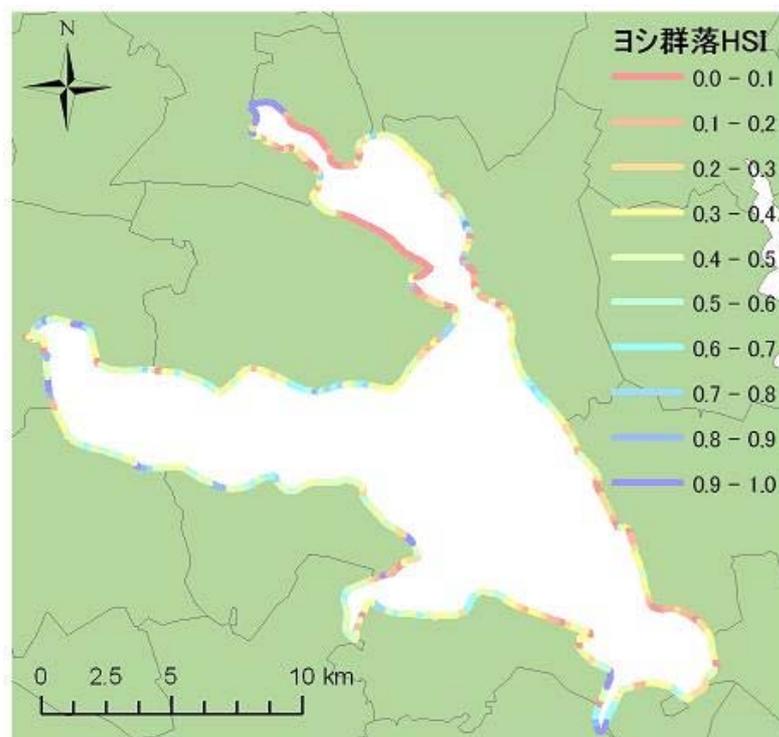


図-4.2.2.6 ヨシ群落の HSI(全域で波高を小さくする施策を実施した場合)